

相産だより

誠実 創造 努力



令和7年度新学期が始まりました

4月8日(火)、1学期始業式、午後から第69回入学式が執り行われました。満開の桜に祝福され、新入生は相生産業高校の門をくぐりました。機械科80名、電気科39名、商業科78名の合計197名が、みんなの拍手で迎えられました。今年度から、男子制服が新しくなり、身を包んだライトグレーのブレザーが、まだ若干大きく感じられましたが、足元はまるでスキップをしているように、軽やかに歩を進めていました。

校長先生の式辞では、高校生活で心がけてほしい2つのことを話しました。一つ目は、「目標に向かって挑戦すること」です。人生において目標を持つことは重要であり、人のため社会のために何かできるかを考え、高い目標に向かって挑戦する道を選択してほしい。目標は、毎日コツコツ継続することにより、達成するものである。さまざまなことに挑戦し、積極的に学んでほしい、と伝えました。

二つ目は、「謙虚な姿勢を持つ」ことです。自分が成長していくには、素直に人の意見を聞き入れる、謙虚な姿勢を持つことが大切である。謙虚さは素直な心から生じ、他人の行為を善意や好意として受け止め、受け入れる心となる、と話しました。

さらに、保護者の皆さまに対し、相生産業高校に入学させて良かったと喜んでいただけるよう、教職員一同、精一杯尽力する覚悟であることを述べました。また教育活動を進めるには、「生徒と生徒」、「生徒と教職員」、「教職員と保護者」の信頼関係であり、保護者の皆さまにも本校の教育活動に対する理解と支援をお願いし、締めくくりました。



次に、PTA会長の福田富紀子様からご祝辞をいただきました。高校生は大人に一步近づく場所であり、公共のルールや世の中の仕組みにも関心を持ってほしい。相生産業高校は、機械、電気、商業と専門分野を学べる高校であり、資格を取得することや、専門分野をより詳しく発表する場に参加できる。また便利な携帯電話を使うことがあっても、使われることのないように気を付けること。周りに流されない自分を持ち、一つでも多くの経験を積み、大人への第一歩としてほしいと、述べられました。最後に子どもたちの三年間をより良いものにすべく、校長先生はじめ教職員の指導とPTA活動への理解を求められました。

草木が芽吹き、門出の季節です。新入生は期待と不安が交錯し、緊張の毎日だと思います。2年生、3年生はひとつ上になり、自分のことだけでなく、後輩のことも考えてあげることが大切です。わからないことは先輩や先生に聞き、教えを請われたら、相手の立場になって丁寧に教えてあげる。みんなが助け合い、絆を深め、より良い相生産業高等学校にしていきたいと思います。

